

ウォーキング協会との連携により、健康イベントを開催

徳島県

ポイント

(財)徳島県生活衛生営業指導センター（以下「県指導センター」と表記）の事例は、地元の健康イベントと銭湯での健康入浴をマッチングさせたモデル事業です。

従来のやり方に取り組んだものの、参加者が思うように増えない中、「運動」と「入浴」という健康入浴の2つのキーワードから全く違う形の健康入浴事業に取り組みました。

- ウォーキング協会というスポーツ団体との連携により、健康イベントと銭湯における健康入浴を上手にマッチングさせた取り組み
- ウォーキングマップの作成や当日の運営についても、ウォーキング協会の持っているノウハウを上手に活用
- 誰もが気軽に参加できる健康入浴事業

ゆ・湯・ウォーク実現まで

県指導センターでは、平成17年から従来型のモデル事業を実施してきました。

しかし、実施にあたり最も苦労したのが参加者の確保です。そこで目をつけたのが徳島県ウォーキング協会（以下「県ウォーキング協会」と表記）が実施するウォーキングイベントです。

銭湯の活性化を図るため「スタンプラリー」

の実施を考えていた徳島県公衆浴場生活衛生同業組合（以下「県浴場組合」と表記）の希望をマッチングさせ、新しい事業である「銭湯の駅 ゆ・湯・ウォーク」が実現しました。県ウォーキング協会や県指導センター、県浴場組合では、「徳島の名物」にしたいと意気込んでいます。

実施内容

「銭湯の駅 ゆ・湯・ウォーク」は、ウォーキ



「銭湯（ふろ）の駅 ゆ・湯・ウォーク」参加を呼びかけるチラシ



雨の中、コースの銭湯を訪れた「ゆ・湯・ウォーク」参加者たち



「ゆ・湯・ウォーク」コース図の一例（小松島の湯巡り9キロ）

ングを楽しみながら、道の駅に見立てた公衆浴場に立ち寄って入浴と休憩をとるもので、第1回は平成19年11月18日に実施されました。

徳島、鳴門両市の16の銭湯がほぼ3カ所ずつ組み込まれた6つのコースは、8キロメートル

から14キロメートルまで、参加者が好みの距離を選べるように設定され、徳島市内の中央公園をスタート・ゴール地点にして開催されました。

参加費は200円で、入浴は無料。参加者にはチェックポイントとなる銭湯でスタンプを押し



でもらうスタンプカード（後日、無料入浴券として使用可）と、簡易入浴セット（タオルと石けんなど）もプレゼントしました。参加者は133人で、事前申し込み数からやや減ったのは悪天候によるものです。



入浴やスタンプを押してもらうため銭湯を訪れた参加者たち

実施してわかったことは、ウォーキングの途中で入浴する参加者が少ないことでした。雨と強風で寒かったこともありますが、「入浴は終了後がいい」と思う人が多かったようです。それでも銭湯を体験したいと足湯につかった参加者もいましたし、スタンプカードのスタンプは番台で押すため、全員が公衆浴場を訪れ雰囲気などを体感したことは大きなPRになりました。

第2回は、平成20年10月5日に小松島市で2コース、阿南市で1コースを設定し実施しました（コースの一例を左に掲載）。前回の反省をいかし、入浴は1カ所のみ無料に変更したほかは、ほぼ同じ内容での実施でした。

この日も雨のため参加者が減り、コース変更を希望した人も多く出ましたが、参加者のアンケート結果では前年と同様に、開催を好意的に高く評価する声が寄せられました。参加者93人のうち、当日の入浴者は58人、後日入浴者は17人でした。

事業の効果など

実施に先立ち、新聞各紙が大きく取り上げたことでPRになるとともに、ウォーキング協会と浴場組合のコラボレーションは「全国初」や「全国でも珍しい」取り組みと紹介する記事も多く見られました。NHKテレビでは「ニュースとくしま610」の経済ニュースで「銭湯浴場業界の現状と打開策」と題した特集も生まれ、厳しい経営が続く公衆浴場業の現状と、「ゆ・湯・ウォーク」などを通して銭湯ファンを増やそう



徳島県立総合環境生活衛生行政総合センター
 企画・推進・実行「ゆ・湯・ウオーク」参加種別一覧

①元町湯 徳島市元町 〒770-0001 徳島市元町1-1-1 電話: 087-821-1111 営業時間: 10:00~18:00 休日: 日曜、祭日	②城北湯 徳島市城北 〒770-0001 徳島市城北1-1-1 電話: 087-821-1111 営業時間: 10:00~18:00 休日: 日曜、祭日	③吉野湯 徳島市吉野 〒770-0001 徳島市吉野1-1-1 電話: 087-821-1111 営業時間: 10:00~18:00 休日: 日曜、祭日	④新町湯 徳島市新町 〒770-0001 徳島市新町1-1-1 電話: 087-821-1111 営業時間: 10:00~18:00 休日: 日曜、祭日
⑤新井湯 徳島市新井 〒770-0001 徳島市新井1-1-1 電話: 087-821-1111 営業時間: 10:00~18:00 休日: 日曜、祭日	⑥徳島湯 徳島市徳島 〒770-0001 徳島市徳島1-1-1 電話: 087-821-1111 営業時間: 10:00~18:00 休日: 日曜、祭日	⑦新田湯 徳島市新田 〒770-0001 徳島市新田1-1-1 電話: 087-821-1111 営業時間: 10:00~18:00 休日: 日曜、祭日	⑧大塚湯 徳島市大塚 〒770-0001 徳島市大塚1-1-1 電話: 087-821-1111 営業時間: 10:00~18:00 休日: 日曜、祭日

スタンプラリー券の表紙とスタンプを押してもらう参加銭湯一覧(部分)

とする試みが紹介されました。

「ゆ・湯・ウオーク」に参加して「銭湯の良さを見直した」という人も増えましたし、新聞やテレビの報道も銭湯のがんばりを好意的に取り上げ、認知度アップにつながったと考えられます。

平成20年には同時開催事業として「銭湯の駅巡り スタンプラリー」も行いました。10月10日の「銭湯(1010)の日」にちなみ、銭湯で配布するスタンプ券にスタンプを5個集めると「銭湯無料入浴券」が1枚、8個なら2枚もらえるもので、開催期間は10月1日～31日、無料券使用期間は10月1日～11月30日までと決めました。

22の銭湯をすべて入浴した人からは「全銭湯終了認定証を発行してはどうか」、「無料入浴券の発行と同時に次のラリー券を発行し、スタンプ5個で無料入浴券の交付が続いていくような方法をとってはどうか」という提案もありました。スタンプを集める達成感が喜ばれ、各銭湯に足を運んでもらうには最適な企画であることがわかったのも、「ゆ・湯・ウオーク」で各銭湯がスタンプラリーのノウハウを学んだことから実施できた事業といえるでしょう。

県指導センターと各銭湯の役割

第1回の実施にあたり、予算として390,000円が見込まれました。この中には資料印刷代として40,000円が計上されています。

当日、参加者に配布する地図はコースごとに6種類が準備されたほか、参加証やチラシなど

も含め、低価格が実現したのは、県指導センター事務職員の浦山麻子さんがパソコンを駆使して手作りした成果です。「印刷会社で取った見積もりはびっくりするほどの高額でした」と浦山さん。地図は国土地理院発行の2万5千分の1の地形図を同院の承認を得て複製しました。コース上の銭湯の外観写真も取り込み、完成度の高い仕上がりです。

当日も事務局、スタッフとして県指導センター職員も多忙な一日となりましたが、運営のノウハウは県ウオーキング協会の指示を受け、スムーズな開催となりました。

一方、コースに組み込まれた銭湯では、通常の営業時間(一部を除き午後からの営業が多い)よりも早くから受け入れの準備が必要となりました。結果的に入浴した参加者が少ない銭湯もありましたが、苦情はなく、「スタンプを押したただけでもにぎわいがあって嬉しかった」とか、「日を改めて入浴に来ます」などと言ってくれる参加者とのふれあいを感じた経営者もたくさんいました。

県ウオーキング協会の協力

銭湯を道の駅にみたく、「銭湯の駅」とネーミングしたのは、徳島県ウオーキング協会長の米田潤二さんです。

米田さんは(社)日本ウオーキング協会の副会長も務め、協会が開く各種ウオーキングイベントや、自身が講師を務める講座の終了後などに銭湯入浴を積極的に取り入れて来ました。「徳島から全国に『銭湯の駅』が広まることを想定し



スタンプラリーと「ゆ・湯・ウォーク」開催を報じる徳島新聞

でのネーミング」と話し、スーパー銭湯とは区別して、従来型の銭湯だけにしか名乗れないよう「商標登録したいほど」と言われます。

「ゆ・湯・ウォーク」の開催にあたり米田さんは、県指導センターからもらった県内の銭湯の住所だけを頼りに訪ねて行き、立地や周辺の道路状況など、総合的に判断してルートを設定しました。ルート設定をウォーキングの専門家に頼った理由は、大勢が歩く場合、道路の混雑状況は言うに及ばず、途中のトイレの確保や昼食の場所をどこにするかなど、たくさんのチェック項目をクリアする必要があるからだそうです。

「ゆ・湯・ウォーク」では、入浴をする人、しない人で時差出発するため、第1回目では3カ所の銭湯で集団がバラバラに分かれる場合も想定されました。第1回、第2回と県ウォーキング協会から約20人がスタッフとして参加、参加者の誘導などに協力しました。

米田さんは、「これからのウォーキング協会の活動は、自分が楽しむウォーキングよりもウォーキングの楽しさや効用を啓蒙する方向に向かいます。各県にウォーキング協会の支部があ



行事の中で銭湯に入浴されましたか？
（「ゆ・湯・ウォーク」アンケートから）

りますので、徳島のウォークを参考に全国で『ゆ・湯・ウォーク』が実現するといいですね」と話しています。

これからの課題

米田さんは「ウォーキングはイベントとして行うよりも、日常的に行うことが望ましい」と言います。イベントも、スタートとゴールを銭湯にするルートや、参加者が多い場合には時差を設けて入浴時間をずらすなど、色々なパターンが考えられるとも言い、これからも知恵を拝借できそうです。県浴場組合のメンバーからもウォークの継続を望む声は多いのですが、予算の確保が大きな課題となりそうです。

徳島県は糖尿病での死亡率、小・中学生の肥満率が高いという不名誉な一面と、四国八十八カ所巡りの遍路道も通り、「歩くこと」に対しての憧れも強い県民性があるそうです。県民に勧めるスポーツにウォーキングが選ばれるという動きもあり、「ウォーキング」と「入浴」をマッチさせた取り組みはこれからの可能性も秘めています。

県指導センターや県浴場組合では、2回の開催で設定された9つのコースを活かし、新たなコースの開拓も行いながら、ウォーキングと入浴をマッチングさせた「徳島モデル」の定着に知恵を絞り、継続していきたい考えです。

「徳島モデル〇〇県版」はどこでも実行可能といえそうです。

(社)日本ウォーキング協会のURL = <http://www.walking.or.jp/>